第９５回 長崎大学ＦＤ実施報告書

長崎大学FD(教育革新シンポジウム「アクティブラーニングを促進するスペース活用」)

【趣　旨】昨年度より、モジュール科目を中心にアクティブラーニングの様々な工夫がなされてきています。また、今春には教養教育棟と附属図書館の改修が終了し、アクティブラーニングを前提としたスペースがいくつか誕生しました。そこで本シンポジウムでは、学生たちの主体的学習をさらに促進できるよう、これらの新たなスペースを有効に活用する方法を共有したいと存じます。

　第１部では、学習空間と ICT を創造的に活用してアクティブラーニングを実践・研究しておられる九州大学の山田政寛先生から、先端事例の紹介を含めた基調講演をしていただきます。第２部では、本学での新たな学習環境のご紹介と活用事例のご報告をいただき、その後全体討論を行います。

【対　象】　全教職員

【日　時】　平成 25 年８月３日（土）13:30～17:00

【場　所】　文教スカイホール（グローバル教育・学生支援棟４階）

【内　容】
13:30～13:40　開会挨拶　　片峰 茂 学長
＜第１部＞
13:40～15:00　基調講演「協調的なアクティブラーニングを取り入れた授業デザイン～学習行動、学習空間、学習ツールの観点から」
講　師　　山田 政寛氏（九州大学基幹教育院教育企画開発部・准教授）
15:00～15:15　質疑応答
15:15～15:30　休　憩
＜第２部＞
15:30～15:55　報告「教養教育棟における新たな教室空間」
報告者　　橋本 健夫 学長特別補佐、川越 明日香 助教
（大学教育機能開発センター）
15:55～16:20　報告「附属図書館のラーニングコモンズ」
報告者　　小川 稔 課長（学術情報部学術情報サービス課）
16:20～16:55　全体討論　　松田 浩 情報メディア基盤センター長
16:55～17:00　閉会挨拶　　佐久間 正 理事（教学担当）
【主　催】教務委員会

【企画・実施】評価・FD 教育改善専門部会

【協　力】附属図書館　情報メディア基盤センター

【参加者】

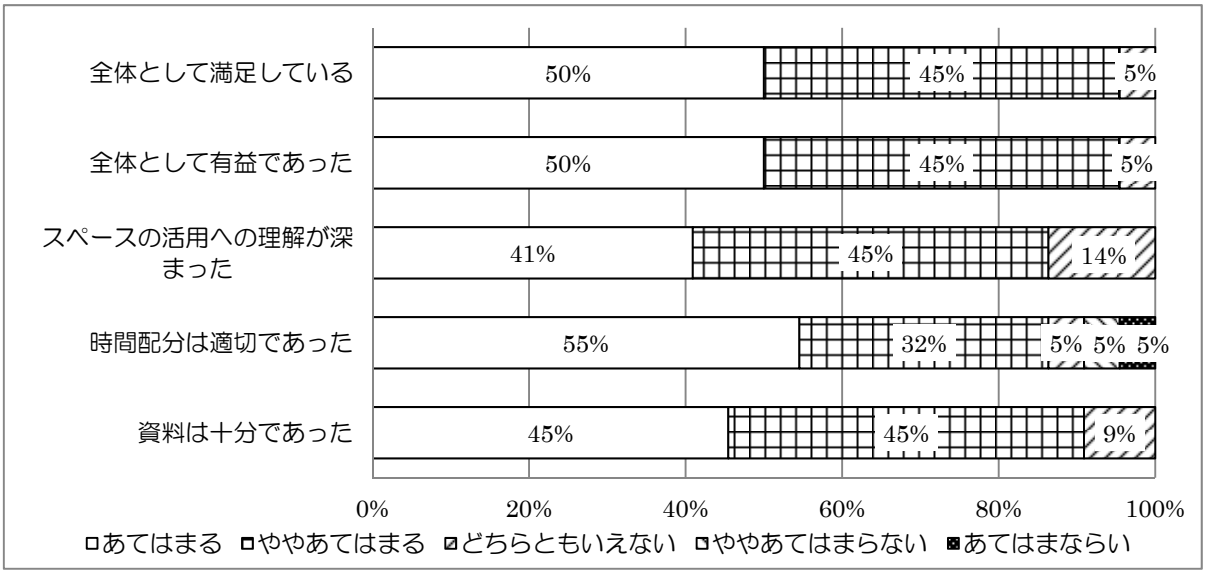
３７名（受講証発行対象者：３５名（学外者１名，途中退出者１名除く））

（内訳）

所　　属	人　数
教育学部	３
経済学部	１
医歯薬学総合研究科（医系）	１
医歯薬学総合研究科（保系）	２
医歯薬学総合研究科（歯系）	１
医歯薬学総合研究科（薬系）	３
工学研究科	７
水産・環境科学総合研究科（環境）	４
水産・環境科学総合研究科（水産）	２
国際健康開発研究科	１
情報メディア基盤センター	３
言語教育研究センター	３
核兵器廃絶研究センター	１
新学部創設準備室	１
学術情報部	３
学外者	１
計	３７

※　事務職員

【参加者からの評価】



〇アクティブラーニングのためのスペース活用に関して、何か感想やご意見がありましたら、ご記入下さい。

・これから授業を担当することになる予定で、教授法、スペース、ツールの活用について有益な情報を得ることができ、授業構築の参考にしたいと思いました。自身の所属するキャンパスは坂本地区にあるため、施設の活用という点では限界があるかとも思いますが、学習ツールの利用という点では勉強になりました。
・山田先生、川越先生のお話は参考になりました。
・大変参考になりました。各設備について、今後有効に活用していきたいと思います。
・新しい教室は多様な使い方ができそうで、楽しみです。
・評価が難しそうですが、例えば、アメリカの大学で一部やられているように ABCD の評価ではなく、pass/fail の評価は日本の大学にはなじまないのでしょうか？
・九州大学 山田先生の講演は、とても興味深く、理解を深めることができました。
・アクティブラーニング、そしてそのためのスペース活用に関する具体的な事例を知る貴重なお話が聞けて良かったです。また、教養教育棟にアクティブラーニング仕様教室が８教室、付属図書館にはラーニングコモンズが設置されたということですので、演習科目等で利用させていただければと思います。今回のシンポジウムでは、授業のバランス、多様なツールの利用法、学習評価の在り方に課題があることも分かりました。現在取り組んでいる教養教育についても検証して情報を提供していただけたらと思います。
・簡単な理科系の実験ができるような教室があれば教育効果が高まると思う。大がかりな実験室の必要はなく、作業台と流し程度の設備で良い。
・教養教育だけでなく、学部教育にも取り入れようと思った。
・液晶プロジェクターが複数台あったが、個別に使用できなかった。（A１２だと思います。

同一の画面しか投影できない。）結局、複数台のプロジェクターを持ち込んだ。何とか改善できればありがたい。
・図書館の資料に、コピー機の位置と利用についてもあると助かったと思います。教室については、利用してみたいと思えるプレゼンでした。
・スペース活用の事例紹介がいくつかあったが、授業方法との関係を明確にした事例集としてまとめて配布してほしい。自分の担当授業に取り入れていこうと思う。
・自分の授業の中で、いかにして「知識を伝授する講義のスタイル」を変化させていくか、悩んでいたところに、大変有益な話題を伺うことができ、大いに参考になりました。
・アクティブラーニングの実際の様子を理解することができました。
・教員になってまだ日が浅いので知識習得のため今回参加させていただきました。アクティブラーニングの経験がなく、初心者の私には少し内容が難しかったのですが、これから学習し今回学べたことを今後活かしていけたらと思います。

〇今回のシンポジウムの運営に関して、何か感想やご意見がありましたら、ご記入下さい。
・毎年、継続して下さい。
・3 時間半は長すぎるので、テーマを絞って 2 時間以内にした方が参加者も増えるのではないかと思います。
・土曜の午後はつらいです。
・タイムスケジュール通りに進行してほしい。
・冷房が効きすぎて寒かったです。（他２名）

【総括】

本シンポジウムでは、学生たちの主体的学習をさらに促進できるよう、教養教育棟と附属図書館のアクティブラーニングを前提とした新たなスペースの有効な活用法を共有することを目的としている。

第１部では、九州大学の山田政寛先生による基調講演が行われた。その内容は、アクティブラーニング、そしてそのための授業設計、並びにスペース、ツールの活用法等 多岐にわたったが参加者からは多くの好評を得て、十分満足のいくものであった。また、第２部では教養教育棟のアクティブラーニング仕様教室(８教室)、並びに附属図書館のラーニングコモンズ等 新たな学習環境と活用事例の報告が行われた。

以下、参加者の感想から、今後は次の点で検討の余地があるように思われる。
・　簡単な理科系の実験が可能な教室があれば教育効果が上がるのでは との提案があった。
・　スペース活用の事例紹介が幾つかあったが、授業方法との関係を明確にした事例集としてまとめて配布してほしいとの要望があるので、今後検討してみると良いかもしれない。
・　アクティブラーニングの場合、成果評価のみで教育・学習評価はできない。従って、学習評価の在り方に課題があるので、今後検証して情報を提供していく必要がある。

（文責：長富　潔）